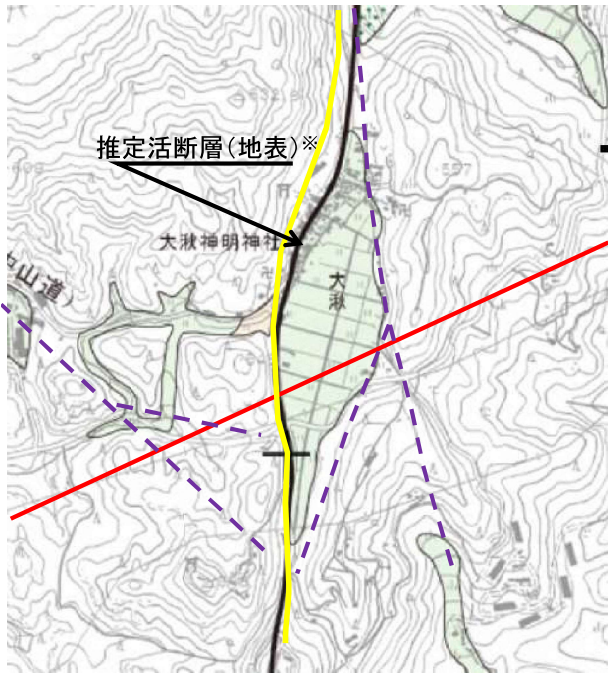
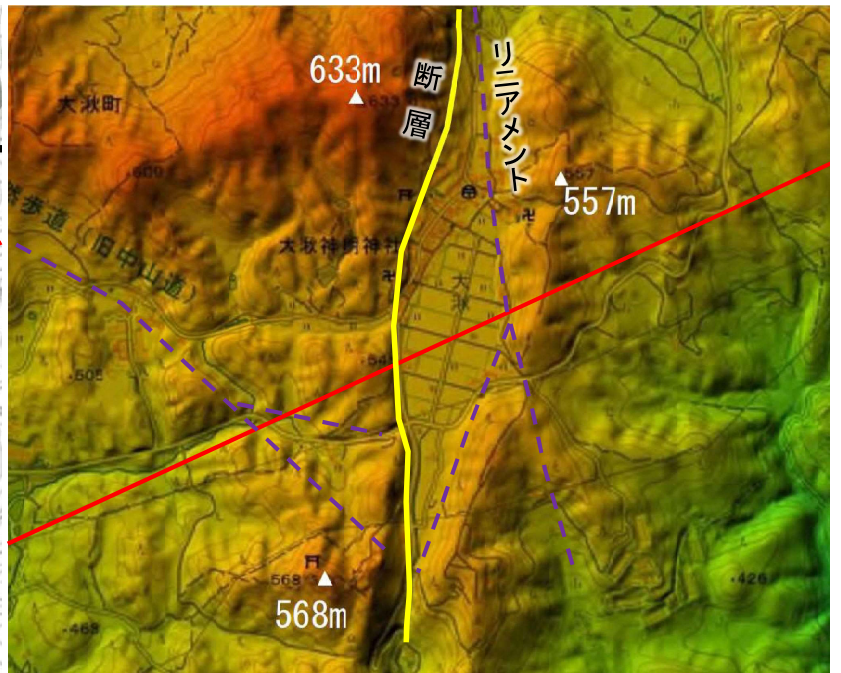


## 大湫盆地の手前(西側)における地下水の流れ(推定)



「都市圏活断層図」国土地理院より引用加筆



国土地理院HPより引用加筆

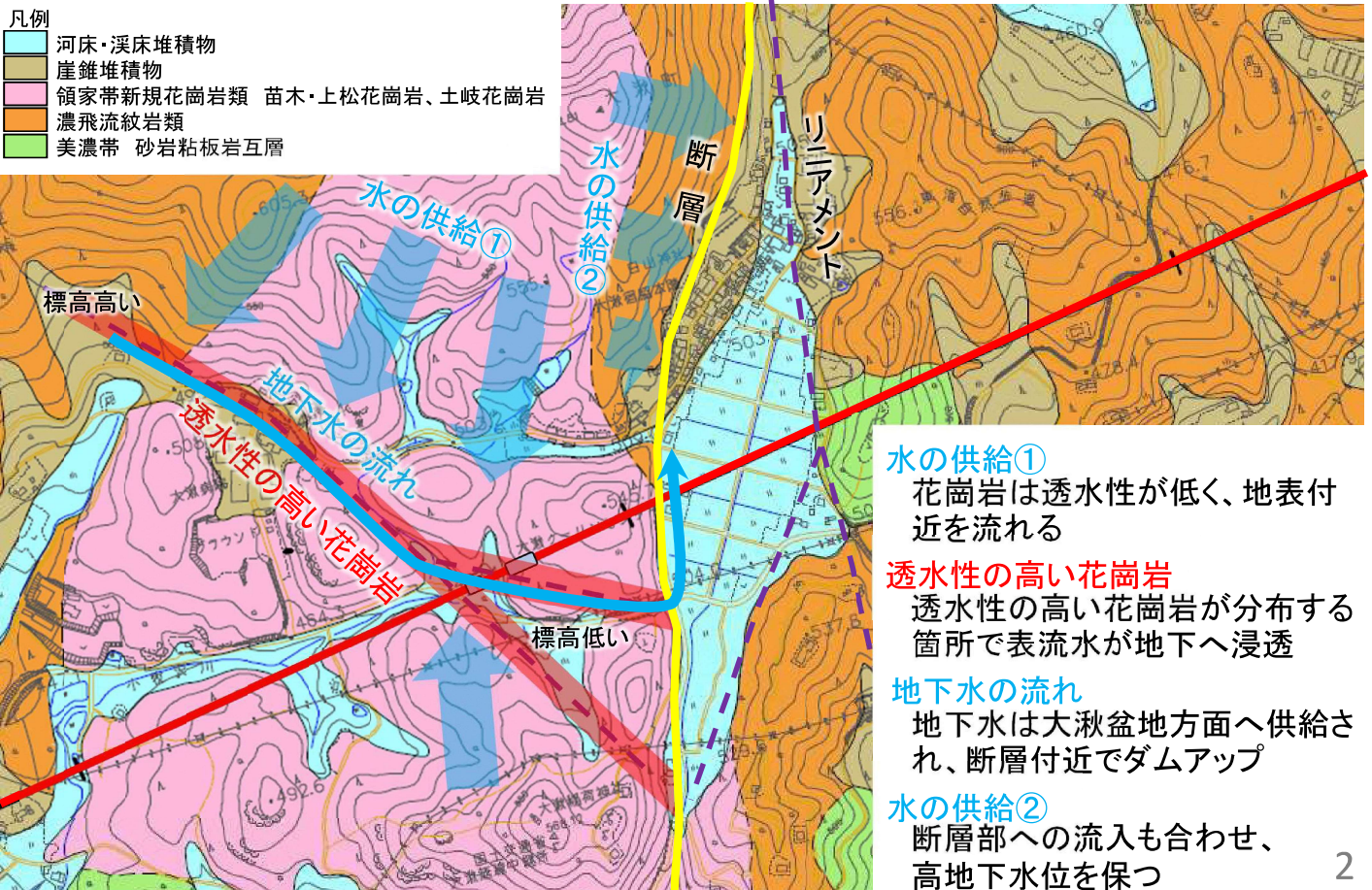
盆地西側には、「都市圏断層図(国土地理院)」に推定活断層として記載があることのほか、既往の調査や地形判読により、断層やリニアメントを追記した。

—— 断層(推定)    - - - - リニアメント(推定)

※ 地形的な特徴により、活断層の存在が推定されるが、現時点では明確に特定できないもの

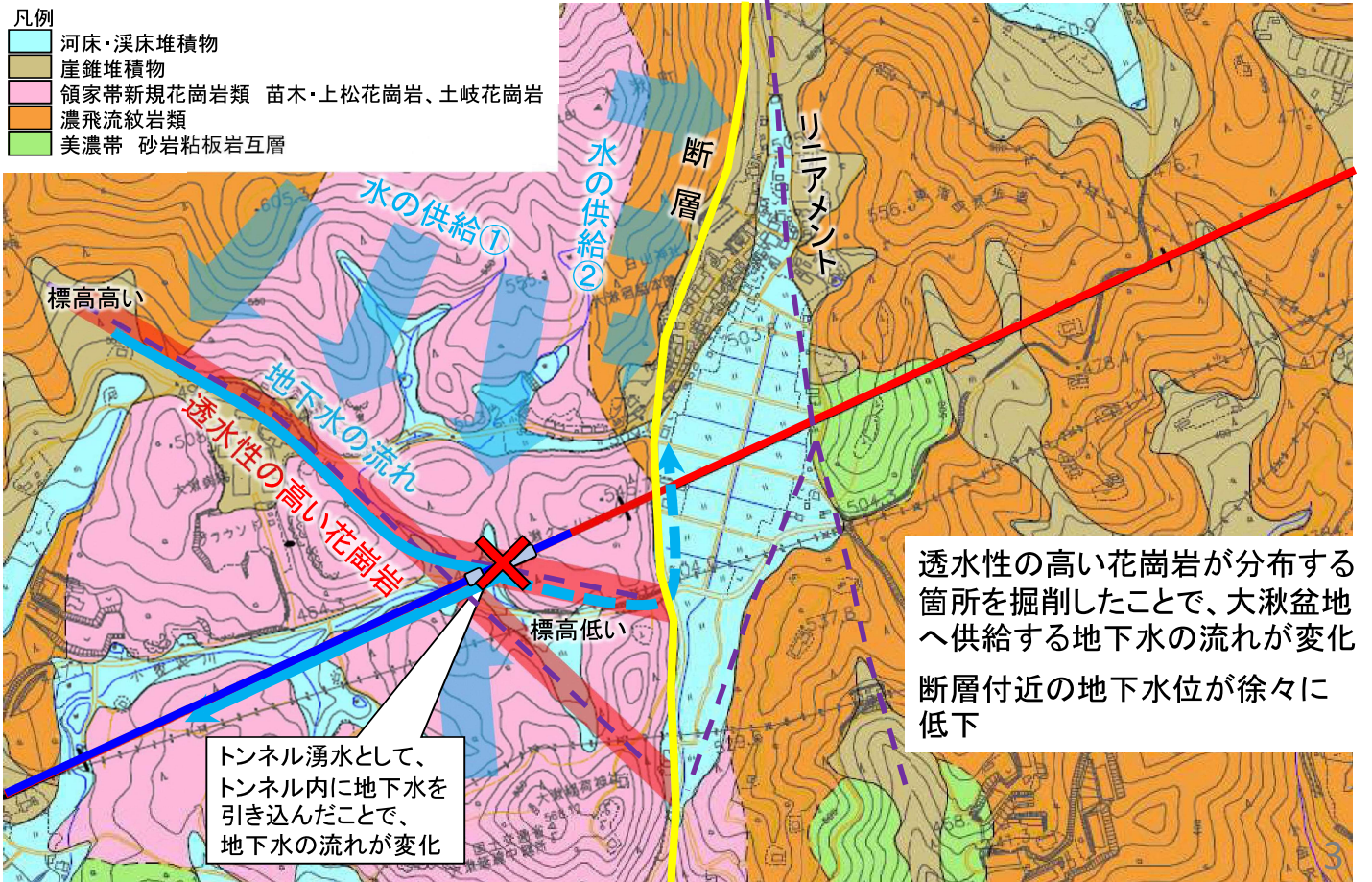
1

## 大湫盆地の手前(西側)における地下水の流れ(推定)



2





### 追加調査の考え方

前述したメカニズム(推定)の仮説は、データが十分とは言えない中で検討したものであり、今後、追加調査等を実施のうえ、必要により見直していきます。

今後、メカニズムに関する検討を深度化するにあたっては、地点ごとの地質情報、とりわけ透水性に関わるデータが必要であるため、まずは以下のような追加調査を考えています。引き続き、原因究明と並行して、現在進めている対策に係る効果の確認方法等の検討を進め、更なる追加調査等も検討して参ります。

- ① 大湫盆地の手前(西側)における新規観測井の設置
  - ・トンネル湧水が発生した箇所をはさむ位置でボーリングを追加し、地質や岩盤の透水性、地下水の流向等のデータを取得します。(注入後の効果の確認にも活用)
  - ※ 深さはトンネルレベルまでの深さ(約150m)を予定
- ② 大湫盆地内における複数測線の電気探査
  - ・盆地については、電気探査を複数の測線で実施することにより、三次元的な水理地質構造、とりわけ地質の違いや帯水層の分布に関するデータを取得します。
  - ・断層を横断する測線によって、断層の性状(およその幅や傾斜等)の把握します。
- ③ 大湫盆地東側における新規観測井の設置
  - ・盆地東縁部の地質や地下水のデータを取得し、盆地全体にわたる地質構造、岩盤の透水性、流向も含む地下水状況などを明らかにすることを目的として行います。
  - ※ 深さは①と同様の考え



# 追加調査の考え方

